

明日葉

2007年11月
第32号

Human Native Health Research ~人類本来の健康を追求する~

ネイティブヘルス（菜食整腸健康法）

東京支所

12月 1日（土） OPEN!

ご要望の高かった東京での「菜食整腸健康法」が12月1日よりスタートいたしました。
「スタッフの方も、来られている方々もとても明るくて、治療院じゃないみたい、楽しいところですね。」と口々に言って下さり、「ここは治療院じゃないんです。心から元気になっていただく所なので、楽しんでいただければ嬉しいです。」とお応えする声もはずみます。
東京では一切火を使わず、徹底した完全生菜食にしています。

「こんなにバラエティに富んだメニューが、全部生とは思えない、美味しい！想像外、毎日でも食べたい」と言う声に励まされ、一層生菜食の新メニュー考案に力を注ぎたいと思っています。

「お腹をもむのってこんなに気持ちの良いものとは、他のマッサージとは全然違う。気持ち良くなって、美味しいものを食べて、健康になれる所なんて他にないんじゃないですか」

などの言葉にスタッフ一同とても勇気づけられました。

東京では土、日を営業し、月、火を定休日といたします。

<場所>

住所： 東京都品川区平塚
2丁目1-16 KKビル603号

TEL/FAX : 03-5498-5088

JR山手線 五反田駅西口下車徒歩15分
都営バス 五反田駅西口下車世田谷区民会館行
2つ目桐ヶ谷坂上下車20m戻る
東急池上線 戸越銀座ヨリ徒歩5分

NPO法人ネイティブヘルス七周年記念会

平成19年10月7日（日）11時～14時
大阪：ホテルリッツカールトン

お陰様で70余名の方々をご参加下さって、素敵な集いにさせていただきました。
先ず、浅川紫音さんの司会で桐島洋子さんの講演が始まり、引き続いて開いた祝宴では、様々な方からいただいたお言葉に、設立当初のこと、この7年間のいろいろな出来事を改めて思い出されました。
この素敵な集いを、ここに記録して残したいと思います。

桐島洋子氏講演

「いつでも今日が人生の始まり」

「ネイティブヘルスは私そのもの 私のことを言われている様に思います。私は後ろは山前は海というすばらしい環境と、新鮮な食事をして、野生児のように育ちました。

よく海で泳いだ。波が来るとこわいから身構えてよく波打ち際にたたきつけられ、くやしい思いをした。ある日、急速でとてつもなく大きな波が来た。これはダメだ 勝手にしろ ケセラセラ 体の力が抜けた すると波が私の体をそっと持ち上げてくれた。この体験は、後々もすごく為になり 何かあれば力を抜く事で、私の人生に大きく役立ちました。私は瞬時にリラックスする事が出来る様になりました。

自然におまかせする なるべく体の力を抜いて どこからか浮いてくる力に身をあずけると 健康に生きられます。」

その他に出産、子育ての話、ベトナムの戦火をくぐった話等、実体験を混じえた話に、笑いあり、驚きあり、感動の桐島ワールドに拍手喝采！

近々「森羅塾」という寺子屋を作るといふ。色々な事、色々な才能を持った方を、人々に伝える場所を発足させる予定。詳しくは 桐島洋子さんのホームページをご覧ください。

祝宴

挨拶 松田育三理事（医療法人 松田メディカル理事長）

ネイティブヘルスとの出会いの話の後、びっくり仰天の話になりました。

「一ヶ月前から私はガン患者です。手術、抗ガン剤、放射線治療は受けません。



菜食は以前からもしていたが完全ではなかった。今は完全菜食。そして腸マッサージを受けている。

天はいい時期にガン患者にしてくれたことを感謝しています。というのは、私たちのやっている活動が本当に正しいんだよ、という証明をするために、あえてこの時期にガンを与えてくれたと思っています。

ガンと言われた時の患者の気持ちが、更によく理解できるようになった。来年は元気になって報告したいと思います。（一同拍手）

これから一段とネイティブヘルスに力を入れて付き合っていきたいと思います。私がどのように回復していくか監視してやって下さい」と力強い言葉に感動しました。

祝辞 黒田クロ氏（漫書家・講演家）

発足当時からお世話になり、チカコ健康サロンの名付け親。この日は以前から決まっていた講演会のため、弟子の矢伏真理さんに手紙を託してくれました。

「皆川容子さんとは、最初に阪急インターナショナルのラウンジで会った。杖をつけてゆっくり歩いて来られ、背筋を伸ばして上品な方、また頭が良く、お嬢さんタイプで大変気高い方というのが第一印象でした。話をしているとき

わやかな人 何故かわからないけど暖かい風が心に流れるのを憶えています。」

と皆川との出会い、チカコ健康サロンを作った時のことを述べ、これからもこの健康法を皆に伝えていただきたい。等々暖かいお言葉に、今迄心から応援していただいた事が伝わってきました。

新著『楽しくなければ仕事じゃない 健康第一宣言！！』の本を出席者全員にいただきました。本当にありがとうございます。

次に、菜食整腸の体験談、曾根三治氏（日本ピアノ調律師協会理事）

「松田先生の紹介で、おもしろい所があると聞いてネイティブヘルスに行き、皆川先生に会いました。体験談を聞いて、俺のガンなんてたいした事がないと思った。

ネイティブヘルスでお世話になって気持ちは常に明るく元気になった。

ガンと言われた時、病院から生きて帰るなんてことは考えられなかったが、松田先生に嫌なことは断れ、と言われていい勉強になった。自分はガンを忘れる 楽しい事をすれば絶対に治るという事を教えてもらいました。

自分を信じ、周りを信頼することが大切だと思います。どんなことでも回りを信じたら悪い人はいないという気持ちでいたのが 今の自分があるのだと思います。」

勇気ある体験談 いつも明るく楽しい曾根さん いつまでもお元気で。



内海淳子さん 佳代さん(母娘) アルパ(パラグアイのハーブ)演奏

パラグアイの民族衣装で「レガーナ(出会い)」「コンドルは飛んでいく」を演奏。すきとおった音色にウツトリ。食事中もBGMとして演奏していただき、会場全体がほんのり癒されました。

た。

乾杯 正司昌子氏（レックス教育研究所所長）
設立当初からの会員、

「始めて会って話を聞いた時、食事の予定がいろいろあるから、それが済んでから始めようと言うと、皆川さんは、それが済む頃には、次の予定を入れるでしょう。そういう人は多分来ないですね。と言われ、腹立ち紛れに、明日から来ます！と言った。それからずっとのお付き合い。

ここまで困難を乗り越え、こういう風に会を広めて下さったこと、又この会をささえて下さっている皆さまのご活躍にカンパイ！！」

食事は、着席ビュッフェスタイルで始まりました。この料理はネイティブヘルスらしく“肉類なしで、野菜中心に”というHOTEL泣かせの当方の注文にもかかわらず、素晴らしい料理のオンパレード、さすがリッツ！！

宴たけなわ、終盤に近付いた頃、小林陽子さん（メゾソプラノ）が、「百万本のバラ」を真紅のドレスで熱唱！

3分間スピーチは三人の方をお願いしました。

柳本信雄氏（ホロン柳本歯科クリニック院長）

「口というのは腸の上の入り口、歯の病気は腸が悪くて起こることがある。3年前スイスのバラセルサスクリニックを訪れた時聞いたのは、リュウマチの原因は腸にある。その状態を悪くするのは口である。リュウマチをよくするには腸を良くし、口を良くしないと治らない。すべからず難病はそういうケースが多い、ということです。

7年といっても他に手本がない状態でよくここまでやってこられた。これからはますますのご活躍をお祈りしています。」

スイス見学時の大切な話に共感しました。いつも応援していただき、ありがとうございます。

友人代表 大槻 修氏（甲南女子大学名誉教授）

「友人というより悪友です。大酒飲みの集いには、いつも皆川さんがいた。飲んで歌ってよくさわいだ。その仲間たちはいつもお容さんと呼んでいました。私にエモンカケというあだ名を

つけたのはお容さん、若い時やせてヒョロ長くいかり肩で背広が泳いでいたからでしょう。親しい者たちで備中へ旅行した時、高梁川を酔って泳いでおぼれかかったのを、お容さんに助けられたこともありましたね

とにかく忙しい方です。ある日突然入院されたと聞き、見舞いに行ったら滅菌室とやらに入っていて、大変な病気だと思っていたら、今度は三宮センター街を2本足で歩いておられ、びっくりした。話せば思い出がイッパイです。これからもどんどん発展されるよう、又、悪友を呼んでください」

笑いたっぷりの楽しい思い出話、我々が知らない理事長の一面をみました。

新居敏子さん（ナチュラルハウス代表） 研修卒業生

「60才代で研修生になり、皆川先生の話の一つ一つ思いながら、お客様と接していくなかでできた相互の信頼が私の大切な宝です。相談すればいつでも暖かく教えてくれ、嬉しい報告をすれば心から喜び、また励ましてくださる皆川先生のお導きあればこそこの私です。嬉しい ありがたい やっと出合えた私の使命とも言うべき学びの人生に感謝申し上げます。薬害に苦しむ多くの人々が、大自然から与えられた健康体を取り戻していかれまますように、ネイティブヘルスのますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。」

現在すばらしい活躍をされ、一人一人心から接して信頼を得ておられます。

時間が少しできたので飛び入りスピーチをお願いしました。

辻 良樹氏（書とことば工房慶樹）

「ある日松田先生に相談しました。“知り合いの奥さんが鬱になって電車に乗ったら倒れそうになるんです”松田先生は“倒れたらいいやんか”それを奥さんに伝えると、奥さんは“そうか 倒れたらええんや”と言って気楽になり、今も元気にされています。

ますますネイティブヘルスが世の中に伝わっていくことを祈っています。」

福山琢磨氏（株新風書房社長）

「『菜食整腸の奇跡』の本を作らせていただくに当たり、皆川さんと色々やりとりをし、分

身作りをするつもりでやりたいと申しました。本は見出しが大切で、キャッチコピーとなり、読者をいかに本文に引き込むことができるか、これが見出しの力です。」

本が出来上がるまでの話に、本への想いが伝わってきました。良い本を作っていただきありがとうございました。

花束贈呈

松田先生に皆川から、研修卒業生から皆川に花束が贈呈されました。

皆川榮治氏の話 最初に楊先生を紹介

「菜食が人間の食べものであるということは旧約聖書に出ています。「葉と種を持つ木をあなたたちに与える。これがあなたたちの食べものである。」肉は出てこない。しかも生で食べるのです。

この楊先生健康法を伝えた時「肉や甘いものを食べられないならやらない」と言っていた姉を説得するのに半年かかりましたが、やり始めたら徹底してやりとげ、今日に至りました。こういう健全な食事をする人が増え、健康な人が増えていくことを伝導していただきたい。」

皆川からお礼の言葉

10年前の私は、病院から「膠原病は一生治りません。一生薬を飲みなさい。膠原病がひどいため手術ができないので一生歩けません」と言われ続けていました。それが今こうして、元気にしているのですから、自分が一番驚いています。始めて楊先生に出会った時に「腐っても壊れても、自分のものなら修復できます。治癒力を信じなさい」と言われた。その言葉に希望を見出しました。難病で一番困っている時に助けていただいた友人たちに心から感謝しています。

私が元気になった噂が広がり、とうとう楊先生を日本にお迎えして弟子づくりをし、今日に至りました。難病で困っている時、そしてこの7年間もいろいろな方に助けていただきました。私は周囲に暖かい人たちがいっぱいいてくださって幸せです。皆さま方の愛情をいただいて今仕事をさせていただいております。一人一人に感謝の気持ちを持ちながら、これからもそのお礼の気持ちで、社会へのお返しを続けていきたいと思えます。

今日は本当にありがとうございました。

知識（チ）からだ（カ）こころ（コ）の健康を考える人たち、仲間づくりのサロンです

月・日 時間	講師（敬称略） 演題	会 費	備考
1 5 日（土） 13:00-14:30	皆川容子 「あなたの腸は大丈夫？」 腸はあるゆる病気を支配する		芦屋市民 会館 山香 塾主催
1 9 日（水） 15:00-16:30	佐々木宏・聡子夫妻他 「クリスマスコンサート」 ピアノ・コントラバス・クラリネット	会員 無料 一般 1000 円	大阪
1月 1 9 日（土） 14:00-16:00	皆川容子 「食と健康を考える」 健やかな毎日のために		大阪福島 よろず学校 高齢者生協
2 3 日（水） 15:00-16:30	皆川容子 「ヘルシークッキング」 火を使わない料理教室	会員 無料 一般 1000 円	大阪
2 6 日（土） 10:30-12:00	皆川容子 「ヘルシークッキング」 火を使わない料理教室	会員 無料 一般 1000 円	東京
2 8 日（月） 15:00-16:30	松村睦朗 「なぜ人は病気になるのか」	会員 無料 一般 1000 円	大阪
2月 2 日（土） 15:00-16:30	岩浅えり子 「介護保険・現代事情」 介護保険利用する人・提供する人ア・ラ・カルト	会員 無料 一般 1000 円	大阪
9 日（土） 15:00-16:30	松田育三 「自分でつくる心と身（からだ）」	会員 無料 一般 1000 円	東京※
1 9 日（火） 15:00-16:30	もりけん 「歌い継ごう日本の歌」 ハーモニカ演奏とお話	会員 無料 一般 1000 円	大阪

※会場未定、1月に入ってからお問い合わせください

前日までに必ずご予約ください

ヤーコンの季節です
 いつもヘルシークッキングに使っている
 ヤーコンが入りました。
 ポリフェノール、食物繊維いっぱい

講師プロフィール

佐々木宏 (コントラバス)

桐朋学園大学卒業。関西フィルハーモニー管弦楽団にコントラバス奏者として在籍するかたわら、多方面で指揮活動をする。

佐々木聡子 (ピアノ)

桐朋学園大学短期大学部音楽科ピアノ専攻卒業。カワイ音楽教室ピアノ講師、桐朋学園大学付属子供のための音楽教室講師を経て現在、大阪国際大学短期大学部幼児教育課非常勤講師。ソロ、伴奏、室内楽の他、学校公演などにも数多く出演。

山下綾美 (クラリネット)

大阪音楽大学短期大学部卒業。クラリネットを小川哲生氏に師事。神戸のアマチュアオーケストラ摩耶交響楽団に所属。その他クラリネット、アンサンブル、室内楽等の活動を行っている。

佐々木有紀 (ピアノ)

5歳の誕生日に楽譜がほしいと母にねだったのがきっかけで、ピアノを習い始める。想像していたより、かなりキツイ練習に耐え(?) 05年5月には、佐々木宏(父)の指揮する八尾フィルハーモニー交響楽団と、モーツアルトのピアノコンチェルトを協演。練習嫌いの本番好きではあるが、将来の夢はピアニストとか・・・現在、船曳千智先生・西岡知子先生に師事。

松村睦朗

昭和15年(1940年)奈良県の農家に生まれる。昭和41年(1966年)京都府立医大卒業。日本神経学会認定医。日本内科学会認定内科医。37歳より東洋医学の研究、実践をして現在に至る。平成18年より東洋医学専門学校講師(週1回講義)

自然の法則に素直になることが病気から解放される近道であり大道であります。大自然に全面的に降伏すればよいのです。自然に歩めば自然の道、不自然を歩めば不自然の道。不自然の道を歩めば病気が待っている。自然随順を妨げる根元が、人間を人間たらしめている言葉、理性そのものにある。そのことが一番やっかいなのです。直感が先で理解は後です。

岩浅えり子

北海道小樽市生、保育専門学校卒、1977年結婚を機に大阪府枚方市で障害児担当保母、留守家庭児童会指導員など子供と共に15年過ごす。91年映画「病気で死ぬということ」製作実行委員会に参加し、高齢者協同組合設立への意欲を持ち、93年枚方市を退職し、97年、大阪高齢者協同組合設立事務局長。99年、大阪高齢者生活協同組合専務理事

これからの小子高齢社会を支える為に、老いも若きも参加できる新しい協同組合。「福祉・仕事・生きがい」を理念にし、「安心して暮らせる地域づくり」を行う事が基本。「寝たきりにならない・しない」を目標とし、元気なうちは働き、困った時は助け合う。高齢者がいきいき主体的に活動し、また地域で困った時に支える事業それが福祉事業です。購買生協ではなく「福祉事業」が中心の生協です。

松田育三

昭和12年大阪生まれ。未熟児として生を受け、虚弱児として育てられ、学校は欠席がちであった。子供の時から機械いじりが好きで工学部を志したが、病弱のため就職の心配のないようにと気の進まぬまま京都府立医大に入学。在学中、十数ヶ月肺結核にて入院、この間にこの病気が精神状態と深く関わっていることを体験する。卒業後消化器内科を専攻。ここでも消化器疾患が心の病気と考える様になり、心身医学の勉強にのめり込む。現代の日本の健康保険制度では心身医学で生計を立てることは不可能と知り、臨床医学を去り健康管理を志す。

「医学は不安をばら撒くものであってはならない。希望を与えるべきものである。」との理念のもとに職場の集団検診を行う傍ら、啓蒙活動に東奔西走する。特に講演ではいかに自己治癒力が健康回復に大切かを説き、免疫が自己治癒力の源となっていることを力説。著書「癒いやす」他松下電器健康管理センター、国鉄大阪保健管理所主任医長を経て労働衛生コンサルタント松田事務所（昭和58年）、医療法人松田メディカル（平成6年）を開設 NPO法人ネイティブヘルス理事

もりけん

1951年大阪市生まれ。長年勤めた幼児教育出版社を43歳で退社し、モンゴルに渡る。自然に添うように生きる遊牧の暮らしを学び帰国。以後モンゴルの正しい理解と亡くしてしまった日本の心を取り戻せと訴え続ける。日本の童謡の普及のため、作詞（新しい童謡の創作）、演奏（昔からある良い童謡の伝承）の両面で展開、全国各地を講演、ハーモニカによるコンサート活動は海外にも及びモンゴルを始めロシア、中国、北欧のフィンランドやスウェーデンなどの子供たちとも交流している。文部科学省の財団法人すぎのこ文化振興財団の環境ミュージカル「緑の星」をはじめビクター「ふしぎの国のアリス」などを発表、絵本、童話、童謡など子供のための創作活動をしている。日本音楽著作権協会会員、日本童謡協会会員、梅花女子大学、ヤマハ音楽教室、朝日カルチャーセンター、よみうり文化センターの各講師。

始めての子育て

新居 諭

子供は「泣くのが仕事」と言いますが、我が子は、とても仕事熱心で、寝る間を惜しんでせっせ、せっせと仕事をしています。

子供を見ていると、人間が動物であることを強く感じました。違うところは笑うことです。人間しか笑わないし、笑うとこんなにカワイイ動物はいないでしょう。

授乳時に、母親がテレビを見て子供の方を見ていないと、子供は母親の顔をピシヤピシヤたたいて怒りだします。「カワイイ自分を見ろ!!」と思っているんですかね。顔を見るとニタツと笑います。母親の愛情を受けていないと不安になるんでしょうね。「テレビを見ながら、或いは携帯をしながら授乳すると、子供は壊れる。授乳時のお母さんの語りかけを聞き、口元を見ながら子供は育つ」と、

0才教育専門の正司正子先生は言っておられます。

オムツのことですが、10才になった子供に「昔、紙オムツが嫌いで逃げ回った」と言われたという話を聞きました。紙の方が気持ち悪くて、布の方が良いらしいです。布が嫌いでオムツが取れると思っていましたが、逆のようです。親が喜ぶからトイレでする様になるみたいですね。

「アーアー」でもしゃべると私は大喜びしちゃいます。親が喜んでるのが嬉しいのかどうかわかりませんが、1時間位「アーアー」言ったりします。

子供のお腹はすごく柔らかく、すごく弾力性があります。

それが自然で健康な腸としたら、自分の腸はまだまだと感じました。みなさんも子供の腸と自分の腸を比べてみてください。

（8ページに写真掲載）

東京進出に当たって

今年に入ってから、遠方からNH（ネイティブヘルス）を訪れる方が多くなってきました。中でも、関東地方から泊りがけで来られる方や、問合せが多く、皆さまが仰言るには「どうして東京でしてないんですか」。そのことばを聞く度に、いろいろ考えました。

新幹線とホテル代がなければ、もっと施術してもらえるのに、と、もう少しというところで、断念なさる方には、すっかりお元気になるまでお世話させていただきたい、という思いを強くしてまいりました。

「強く念ずれば通ずる」。願っても無い話がきました。

開設当初の会員様から、ご自分のビルの一室を貸して下さるといいます。

早速東京へ飛んで行きました。

品川区平塚、最寄の駅から五分という便利なところですよ。

しかし問題はいっぱいあります。経費のこと、人材がそろるか、皆川自身大阪、東京、住まいは神戸と三重生活をどうするか、等など。でもやってみなきゃわからない。待っている人がいる以上やろう！決心したら速いです。

12月1日OPEN

11月17日の東京講演会でお伝えしましたら拍手喝采。こんなに喜んでいただけるとは。

翌日からもう予約問合せが入ってきて、決断して良かった！とつくづく感じています。

このネイティブヘルス菜食整腸健康法が、それほどまでに期待されているのだ、と、身の引き締まる思いがします。

冬期休暇のお知らせ（大阪、東京共）

12月28日（金）～1月4日（金）

新居諭
男子誕生
成海くん
(4ヶ月)



新刊紹介

正司昌子著

『授乳時のケイタイで子供は壊れる』

2007年10月刊ベスト新書（164）750円

あとがき

今年もカレンダーが最後の一枚になりました。紅葉を楽しむ暇もなく冬に突入。春にお花見をした時、紅葉狩りはどこにしましょう。と言いながら、去年は12月引越し、今年も東京進出と、文字通り走り回りながら、年の暮れを迎えそうです。

60歳を越して事業を起し、昨年古稀を越えて尚東奔西走できる程元気な事に感謝しています。10年前、楊先生に出会えたお陰と、今更ながらありがたく思います。

七周年には多勢の方々にご参集いただき、またご出席いただけなかった方々からも、お祝いやお励ましをいただき、本当に有りがとうございました。これからは健康づくりを通じて、社会のお役に立つ仕事をしていきたいと思っております。

皆さまお元気で、良いお年をお迎えくださいませ。

皆川